

愛河

令和5年度
高雄日本人学校 学校だより
3月号

令和6年2月29日 TEL07-722-0537



校訓「高雄の子ども」 たくましい子 考える子 思いやりのある子

卒業式・修了式まで残り僅かです

日本では梅の花の季節が終わり、桜の花の蕾が膨らみかけ、少しずつ春の訪れを感じ始める頃でしょうか。ここ台湾では、日中は強い日差しが照り付け、汗ばむ日もあるくらいです。高雄市が熱帯気候に属していることが体感されますね。

さて、明日から3月ですが、いよいよ卒業式・修了式が目に見えて近づいてきました。そのゴールの前に、今週27日(火)は、小学部にて「6年生を送る会」が開催されました。1～5年生の各学級からメッセージを送ったり、ちょっとした劇を披露したりすることで、これまでお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えました。各学級の言葉や表現を聞くと、6年生の子供たちがこの1年間頼もしいリーダーとして活躍し、いかに下級生から親しまれていたかがよく分かりました。6年生の子供たちの表情を終始和やかで、心温まる会となりました。

そして、本日29日(水)は卒業式予行練習を実施しました。緊張感のある中で練習を行い、卒業生・在校生ともに式中の動きや言葉について確認することができました。特に中学部の生徒のきびきびとした行動、姿は全校児童生徒のよい手本となり、練習の雰囲気をもっと引き締めてくれました。

卒業式の登校日数は6日、修了式までは8日を残すのみです。特に、卒業式は小学校6年間、中学校3年間及び義務教育9年間を締めくくる、学校で最も重要な学習の場です。卒業生も在校生も、一つ一つの所作、言葉、表情にこれまでの学習の成果を示すとともに、周囲の人々への感謝の思いをもち、会場にいる全員ですばらしい式を創り上げると意識をもち、式に臨んでほしいと思います。そのためには体調管理も大事です。健康に気を付けて過ごし、よき旅立ちの日を迎えましょう。保護者の皆様のご家庭での励ましのお声掛けをよろしくお願いいたします。



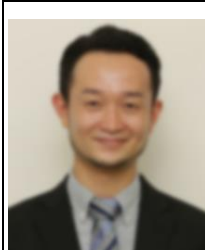
令和5年度帰任者あいさつ

愛河1月号でお知らせしておりましたとおり、今年度末をもって2名の教員が帰国します。二人とも3年間の勤務の間、学部主任や研究主任など、本校における重要な責務を担い、日々児童生徒に寄り添いながら指導に努めてまいりました。保護者の皆様のご支援、誠にありがとうございました。



将来海外に出て働くことが私の夢でした。教員になることでその夢もかなえられるということで、大学生のころ教員になろうと決心しました。日本では、忙しく働いている間にこの夢を忘れかけていましたが、幸運にも台湾で働く機会をいただきました。毎日小学1年生から中学3年生まで多くの児童生徒と、家族のように温かい学校で生活することができて、本当に幸せでした。一期一会のすばらしさを実感できた、高雄日本人学校での生活でした。児童生徒の皆さん、保護者の皆様、教職員の皆さん、3年間お世話になりました。またどこかで皆さんと出会えることを楽しみにしています。謝謝！再見！

教諭 伊達 千尋



台湾の現地校の中に併設されている、世界でここだけしかない高雄日本人学校。実際に働いてみると、立地だけでない「世界にここだけ」の良いところがたくさんありました。小学部1年生から中学部3年生までの全員が顔と名前を知っていて、お互いのことを思い合える温かい児童生徒がいる高雄日本人学校が大好きです。特に、昼休みに汗びっしょりになって走り回った「えんばん」は忘れられない思い出です。

香川県に帰ったら、ここで学ばせていただいたことを胸に、さらに精進したいと思います。うどんを食べに来たらぜひ声をかけてくださいね。ありがとうございました。

教諭 角陸 正知